

学校評価シート

○本園の概要

本園は園児数115名（令和3年4月1日現在）、年少組33名・年中組47名・年長組35名、4学級の編成で保育を行っている。英語教育を保育に導入したのは、平成元年4月、当時は「生きる力」、「豊かな社会性」を育む為、英語を導入することで、何か新しい社会に子ども達の未来へ対して迎えるグローバル化の現実を選択肢も可能性が見られると考えた。

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組の内容	これまでの取組、今後の改善策	保護者、学校関係者のコメント
自己肯定感を持つ、コミュニケーション能力向上	英語を導入し、社会やコミュニケーション能力が豊かになる	友達と楽しく英語で挨拶をすることができ、友達の良さに気持ち一緒に活動する楽しさを味わう。	ネイティブの先生との関わりの中で外国人の方とも動じず挨拶をしたり、話しかけていこうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が話をよく聞いて理解して行動していく姿が素晴らしい。 誰にでも優しく声をかけてくれるので、嬉しく思う。 英語に対する苦手意識がなくなり、興味を持てるようになった。
		物事をやり遂げようとする気持ちを持ち、自分の力で行ない、表現することの充実感を味わう。	・英語での指示を聞いて取り組んでいこうとする力がつく。	<ul style="list-style-type: none"> 学芸会の英語劇では堂々と大きな声で発表していく姿に感動した。 グローバル化が進み、英語力は強みではなく、必要不可欠なものになると考えられるので、この教育は必要だと感じた。
		生活を通して、家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つ	<ul style="list-style-type: none"> 会話の中で感情や気持ちを英語で表現しようとする。 遊びの中で、英語を使って遊びを展開する場面が出る 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭においても、自分から挨拶をするようになった。 出かけた時に外国人の方に話しかける様子が見られるようになった。
		異年齢交流の効果が得られる	・園行事で先輩の姿をみて自分も出来るようになりたい、やってみようという意欲が出てくる。	・公園でも知らない子ども、年上の子にも、話しかけ遊びに入ってくる姿が見られるようになる
豊かな心の育成・魅力ある教育環境づくり	人的環境・物的環境を豊かにする	協力する・努力する意欲が育つ	職員同士も協力する姿勢をつくる事で、環境が豊かになる。 お互いの長所を活かし、短所を補いながら協力・連携し、保育を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 訪問した時に、おだやかで安心する、子ども達が明るく、おだやかで落ち着いている印象を持った。 グローバルゼーションが進む世界、多様性を受け入れるコミュニケーションツールとして有用。
		クラスで色々な問題が起きた時にディスカッションをし、子ども達中心に問題に対し解決していく、子どもの内面性を育てる	対話をして、子ども達がどうしたいのか、どうすれば良いのかを考え行動するようになる。 教諭の社会性が豊かにならなければならない。志を高く持ち、助言・指導する力をつけねば、良いクラス作ができない事を確認。	<ul style="list-style-type: none"> 連れて歩く時に状況を理解し、行動ができるようになり、感謝しています。（旅行に行っても、電車の中でおとなしく本を読んだり、折り紙をしたりする。） グローバル社会においてダイバーシティを受け入れ、英語を使って様々な国々の人たちとコミュニケーションを取り、世界を広げて欲しい。
		ディスカッションの時に意見を発表し、クラスのリーダー、模範となりクラス全体の意識が高まる。保育者も一人の人間として協力していく。	<ul style="list-style-type: none"> クラスの基盤意識が高まる。 異文化の先生との関わりでもじっくりと話を聞いて自分の気持ち、意志を伝えようとする。 現在の子ども達一人一人を活かし、統率していく事は、容易な事ではない。園長を中心に研究会があるから、少しずつ理解成長できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言われている事がわからないと、「お母さん、怒らないで、もう一度教えて・・・」と言ってくるのでハッとする。その成長が嬉しい。 国際共通語の英語はビジネスで使う、自分の意見を英語でも言える子になって欲しい。

○異文化の先生との関わりからも、自己表現、発表、発言する力を勇気付けて頂き、物怖じする事なく行動していく力を後押しして頂ける。